

まちかどネットワーク



猿棚の滝

雨が降るとあらわれる幻の滝



鈴川の桃

戦前から鈴川・今井地区で盛んに栽培されていた



雨が降った後数日間しか見ることができない幻の滝、猿棚の滝は、吉永北地区の赤淵川にかかる大きな滝で、落差が40・5メートルあります。滝の上端から20メートル下がった岩壁の途中からは、地下水がすだれのようにしみ出て小さな滝をつくっているほか、滝つぼから50メートルほど下流には冷たい水が湧き出る場所があります。この滝つぼでよく猿の群れが遊んでいたことから猿棚の滝と呼ばれるようになったと伝えられています。

また、明治から昭和にかけて活躍し、「ふじの山」を作詞した児童文学者、巖谷小波が大正10年に鶴無ヶ淵尋常小学校（現吉永第二小学校）へ講演に訪れた際、猿棚の滝に見とれ、「大瀧や

明治から昭和40年代ごろまで、砂丘地帯という特徴を生かし鈴川・今井地区で大規模に栽培されていた桃。昭和8年には1万4千本以上の桃の木が植えられていました。戦後、桃は沼津や横浜の市場へ卸して行きました。その後、桃畑の多くは住宅地となり、現在鈴川・今井地区で桃の木を栽培しているのは数軒です。

現在桃を栽培する川島昇さん（鈴川中町）と石井邦敏さん（鈴川東町）は、「退職後に桃の栽培を始めました。桃は3月に鮮やかな桃色の花が咲き実をつけます。とても繊細な果物で、鳥獣や病害虫の被害を受けやすく商品になるのは栽培量のわずか3割です。このような被害を最小限に食い止めるた

め、また、成長の速度を遅らせて甘みが増すように、品種により実が二重に袋をつけます。その後、6〜8月の収穫期を迎えてからは、産直市で『鈴川の桃』とわかるようにラベルを貼るほか、品種ごとに説明文を書いた札を置いて販売しています。多くの人に『鈴川の桃』を知ってもらうため、市内の洋菓子店とのコラボレーション商品などを検討中です」と話してくれました。



猿棚の句碑

猿が塙の玉簾」と詠んだことを記念し、猿棚の滝の左岸に巖谷小波直筆の「猿棚の句碑」が建てられています。

猿棚の滝は「猿棚の句碑」の場所から見ることでできるほか、滝つぼの近くまで降りる階段も設置されていて、より近くで見ることができま



桃の生育状況を確認する石井さん(右)と川島さん

★我が家のアイドル大募集!!
子どもの写真(顔全体が写っている横写真)を大募集!!詳しくはシティブロモーション課まで。
☎(55)2700 ⑤(51)1456
E so-citypro@div.city.fuji.shizuoka.jp



こはる 栗田 心晴ちゃん (荒田島)
H29.10.16 生
「元気いっぱい!笑顔いっぱい!すくすく育ってね!」



こと 鈴木 琴都ちゃん (前田)
H29.4.26 生
「ニコニコしながらハイタッチ♪をするのがブームだね♥」



あかり 中島 陽ちゃん (中島)
H29.11.21 生
「君の笑顔は一万ボルト我が家に降りた最初の天使!」

